原っ子

学校だより №45（通算88号）
令和６年３月１日
小郡市立大原小学校
校長　山本貴澄　Tel 72-5500

合言葉「チャレンジ！ みんなで学ぶ やりとげる」
３月のめあて「１年をふり返り、まとめに取り組もう」

給食の安全指導について

今週の月曜日、みやま市内で１年生児童が、給食で出されたおでんの具のうずら卵をのどに詰まらせて亡くなるというとても悲しい事故が起きました。翌日早急に本校でも改めて給食の食べ方について見直し、安心・安全な給食のための学級指導を行いました。給食時間には、給食の食べ方について校内一斉放送にて注意喚起しました。

★食事マナーを守ることは、命を守ること

よくかんで
食べましょう！

〇よくかんで食べる。
〇食べるときに友達を驚かせない。
〇ふざけて食べたり、早食いをしたりしない。
〇食べ物を口に入れたまましゃべらない。
〇食事の際には、牛乳やお茶などを飲んでのどを湿らせる。
〇落ち着いて食事をするために、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをして、食事の時間として区切りをつける。
〇給食に関して特別な支援を要する子には、食事中の様子について特に注意して見ておく。

★窒息時の対処法　子どもが給食を詰まらせたことに気づいたらすぐに、

〇背中を叩く（背部叩打法）
　子どもが椅子に座っているときは、頭を下に向かせ背中の真ん中を手のひらで連続して叩く。倒れているときは、立て膝の上に子どもをうつ伏せにして乗せ、子どものみぞおちを圧迫するようにして背中を叩く。

〇腹部突き上げ法（ハイムリック法）
　背後から両腕を回して，片方の手を握りこぶしにし、子どものみぞおちの下に当てる。もう片方の手をその上に当てて、両手で腹部を上方向に圧迫することを繰り返す。

詰まったものが除去できない場合は、直ちに救急車を呼び、到着するまでの間は、詰まったものの除去を試みながら応急処置を続ける。

以上のことを職員で確認しています。今後も安全管理を徹底し、食物アレルギーや窒息事故の防止に努めていきます。

６年生 ZOOMでエジプトの小学生と交流
～学習した英語を使って会話をしました！～

６年生は、外国語と社会科「世界の中の日本」の学習の一環として、先週と今週の月曜日の６時間目、**ZOOM** を使ってエジプトの小学校との交流を行いました。エジプトとの時差は７時間、エジプトの子どもたちは朝の８時から参加してくれました。

相手校は、EJS New Fayoum（ファイユーム）校です。EJSとは、Egyptian Japanese Schoolの略語で、エジプト・日本学校のことです。近年、エジプトでは、日本の学校で行われている学級会や掃除、朝の会や帰りの会、朝自習、日直などの教育活動を評価し、国を挙げて日本式の教育を取り入れる学校づくりが行われています。エジプトの学校は、イスラム教徒が９割を占める国なのでクリスマスやお正月はなく、金曜日（礼拝の日）と土曜日がお休みになるそうです。EJS New Fayoum校は、首都カイロからナイル川に沿って南に１２０㎞行ったFayoum県にあります。観光で有名なところはワディ・イル・ヒタン（世界遺産）通称「鯨の谷」。砂漠の中に魚介類やマングローブ、サンゴの化石がゴロゴロしているそうです。鯨の祖先で３４００万年前に絶滅したバシロサウルスや４３００万年前に絶滅した４本足の水陸両生のクジラの化石が見つかっています。昔、テーシス海があり、砂漠の中に淡水湖、滝(小さいですがエジプトでただ一つ)、塩湖があるそうです。

今年度は１度だけの交流になりましたが、担任のあいさつから始まり、互いの国のことについて紹介し合いました。その後、３グループに分かれて、一対一でこれまでに学習した英語を使って会話しました。大原小の子どもにとっては初めてのことで、**Hello** から始

まり、**What is your name?　What sports do you like? What food do you like? What do you want to be?** など次々に質問され、とまどう場面もありましたが、英語担当や **ALT** の先生たちに助けてもらいながら、参加した子全員が会話することができました。やり方が分かると、もう一度自分からしたいという子もいました。こちらからも積極的に質問ができるようになれるといいです。この学習をきっかけに、外国のことや英会話などに興味をもってくれればと願っています。

【日本の紹介・１組】

【Fayoum校からの紹介】

【一人ずつの会話】

【一人ずつの会話】

【日本の紹介・２組】

【New Fayoum校】

【両国の友好を示す掲示物】

【Fayoum校の授業風景】

３年生 社会科「小郡市のうつりかわり」

～ふるさと教育・小郡市埋蔵文化財調査センター出前授業～

【出前授業の様子】

３年生は、社会科とふるさと教育で「小郡市のうつりかわり」について学習しています。市埋蔵文化財調査センターの職員の方の出前授業で、これまでに５回来ていただき、「小郡市がどのようにできたのか」「人口がどう変化してきたか」「交通の移り変わりと発展」「土地利用の移り変わり」「公共施設の移り変わり」について学びました。来週の水曜日には、４つのグループに分かれて「大原小校区を歩いてみようフィールドワーク」を行います。昔の遺跡や神社などを巡ったり、旧街道を歩いたりして校区の歴史を直に感じます。

【子どもたちが主に学んだこと】

- １８７２年ころに３５あった村が５つ（三国村、立石村、小郡村、御原村、味坂村）にまとまり、その後小郡町として一つにまとまり、１９７２年に小郡市になった。
- 小郡市の人口はどんどん増えてきたが、最近はほぼ変わらない。現在５９,６１５人。
- 交通は１９００年頃は鉄道も高速道路もなかった。
- １９２１年から中央軌道（現在は甘木鉄道が通っている場所）という鉄道が通り、蒸気機関車が走っていた。
- 今は、西鉄大牟田線（１９２４年）や甘木鉄道（１９３９年)、九州自動車道（１９７５年）や大分自動車道（１９８７年)、長崎自動車（１９９０年）ができた。西鉄三国が丘駅（１９９２年）もできた。
- 昔は田畑が多かったが、１９６７年頃から住宅地が増えた。
- 人口が増えるとともに、公共施設（公園や学校など）の数も増えた。

小郡市は、現在も久留米・福岡市のベッドタウンとして発展しています。筑紫平野の真ん中に位置し、米作りも盛んです。宝満川や田園の自然に恵まれ、歴史豊かなまちです。

【小郡市の「市章」について】

□中央の▲（円錐）は、まちが末広がりに伸びゆく様を表します。
□その上の円は、「円満」を表し、丸く満ちて穏やかな様子を表します。
□両側の鳥のような形は、三沢の「鴨」にちなんでいます。
□全体は、小郡の「小」がデザイン化されたものです。

先人の方々の「まちの発展に向けた願い」を子どもたちも理解し、未来につなげてほしいと思います。